

地域の皆様と共に永く住み続けられる街づくりを進める
「ちどり福祉会」の最新情報



社会福祉法人
ちどり福祉会広報部

福岡市東区八田 1-4-15
TEL: 092-691-5089
<http://www.chidorifukushi.jp>

いきいき

新年号

2019年 1月発行

題字 いきいき八田デイサービス利用者様

春 満開でした

夏

2018年

あんな事こんな事

冬

秋

謹賀新年

施設長 渡部美紀



平成三十一年を迎えました。平成最後の区切りある年ですね。人生の終わりは誰も決める事は出来ませんが、仕事柄、残りの時間が限られた方々と接したなかで、どう生きていくかは未知数であると感じております。

私はよく、入所者お一人お一人がどんな青年時代を過ごし、いつも何を思っ
て過ごしてあるだろうかと考えます。ご
自身の意志を上手く言葉に出来ない方が
沢山いらっしゃいますが、イベント時など
いつもと違う雰囲気を感じられている様
子が窺えます。周囲が幸せな様子だと
見ているだけ、聞こえるだけで嬉しくな
ると思います。今年一年も職員同、元
気に、五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・
触覚）を大切にして、入所者・デイサー
ビス等をご利用の皆さんと沢山触れ合っ
ていきたいと思っております。

ボランティア紹介

笑顔大切に

～傾聴ボランティアの「笑みの会」 畠中 勝子 様～

私たちメンバー8名はいきいき箱崎で活動しています。
 私は母親の介護をしたことがボランティアへの大きなきっかけでした。そして東日本大震災でボランティア活動をした時に傾聴ボランティアの存在を知り、福岡市の広報誌を見てボランティアの講習を受けました。その後、自分が都合の良い時に何かお役に立つことがあればと考えていた時、笑みの会副会長と出会い入会しました。
 活動の際に心がけていることは、まず笑顔にすること、お相手は十人十色なので時にお会いした方に合わせて対応すること、お相手のリズムに合わせる事、たまに無言のお相手には無言も傾聴の一つと考え無理せずに待つことです。



八田小学校と交流会 児童との交流に笑顔あふれる

今年も八田小学校4年生の児童89名と八田特養・ショートステイ・デイサービスの利用者様が交流しました。8月31日に八田小へ出向き、認知症に関する講話をし、9月19日に児童が施設見学に来訪し、10月31日に交流会でした。

交流会では児童たちが楽器の演奏や紙芝居、けん玉、手品など沢山の催し物で利用者の方を楽しませて頂き、いつも以上に笑顔あふれる様子でした。児童たちも交流会を通じて高齢者とのコミュニケーションのあり方や要介護高齢者の理解に少しでもつながったのではないかと感じています。



講師は川添統括部長



小学生の演奏に涙を流す方も...



施設の様々な設備を見学して頂きました

福祉を志す後輩たちのために

私は8年前、専門学校を卒業し介護福祉士として入職しました。数か月後に初めて介護ウェーブに参加したのですが当時、医療や介護保険の制度については学校で学んだ程度で深く考えることはなく、なぜこのような活動をしているのか、しなくてはいけないのか、全く分かりませんでした。それから施設内外の色々な学習会や研修を通じて徐々に理解を深めていきました。
 利用者様の経済的負担は増え、介護報酬が減らされていく中で私が最も不安になったのは福祉人材の確保です。私が卒業した専門学校の後輩たちは今後私と同じように介護の仕事に就くのか、もともと多くの人々に介護を目指してほしい、その為に私たちのおかれている状況を改善しなければ、と思うようになりました。
 私は昨年、介護ウェーブの委員長になり特に署名活動を取り組みました。この署名は「いつでも・どこでも・安心・安全な介護」を目指し国会へ提出するための署名です。
 身内に介護が必要な人がいない方や介護の仕事をしたことない人にとって介護問題はとても遠い問題です。しかし、誰もが歳をとり、身近な問題になるのが介護です。多くの人に現状を知ってもらいたい、その思いで今後も頑張ります。

八田特養 江坂 和哉

介護ウェーブ
 第4水曜日
 午後12:30~13:00
 博多駅前にて



毎月博多駅前活動中!



千鳥橋病院やたたらリハビリ病院等のスタッフも参加しています

ピースセミナー in 東京 知識の継承

全国高齢者福祉9条25条の会主催のピースセミナーに2日間、いきいき箱崎から職員2名が参加しました。今回のセミナーで初めて「登戸研究所」を知りました。この「登戸研究所」とは、明治大学の生田キャンパスが建設される前に実際に所在した大日本帝国陸軍の研究所の事です。戦時中は秘密戦すなわち諜報（スパイ活動）、防諜（スパイ防止）、謀略（破壊、暗殺）、宣伝（人心誘導）に使用する兵器や資材の研究開発をする為の施設でした。初日は登戸研究所の歴史、2日目は資料館、弾薬庫や動物慰霊碑などの史跡を見学させて頂きました。今回得た知識や戦争体験を継承する為にどのような行動をとるのか、とても考えさせられるセミナーでした。

特養 いきいき箱崎 原谷隆志
 いきいき箱崎デイサービス 石橋正裕



集合写真



2018年9月25日 (第1日目)
 山田朗先生の記念講演、DVD鑑賞、ディスカッション



(第2日目)フィールドワーク「登戸研究所」

ゆったりとした余生送って

いきいき八田特養入所者家族

私が子どもの頃、母は県立病院の看護婦をしていました。毎日自転車で病院へ行き、夕方帰ってきて夕飯の支度をする…の繰り返しで毎日忙しい日々だったと思います。

母は何もうるさい事は言わずに私は自由に育てられました。学校の成績が下がると少し小言を言われる程度でした。

優しい母でごく普通の質素な家庭でしたが、実は、母が時々台所で隠れてタバコを吸っていることを私は知っていました。当時、女性がタバコを吸うのはとても珍しかったと思います。

私は福岡で家庭を持ち、母は宮崎で一人暮らしでした。母は歳をとり、近所の人から「おかしい」と報告を受けました。日に何度も郵便局へ行ったり、室内の片づけが雑になったり、食事を摂らなくなったりしていたのです。そして、福岡の私の家に母を引き取りました。

記憶が薄れていくのは年齢を考えるとある程度仕方がないと思っていましたし、一人暮らしが出来なくなったら引き取ろうと以前から考えていました。ただ、私も妻も働いており日中の世話ができないのでデイサービスゆとりさんや八田ショートステイさんを利用して頂きました。お風呂も入れてもらい、大変ありがたかったです。

自宅にいる時、一人で歩いて出かけてしまった事を今でも覚えています。時々スイッチが入って怒り出し、しばらくするとケロッと忘れて元の穏やかな母に戻っていました。

ある日ベッドから落ちて大腿骨を骨折しました。病院での検査で些細なことでも骨折する可能性がある事が分かりました。我が家は段差があるので転びやすく、一日中監視する事は不可能です。認知症が進んで入浴やトイレなどが自分で出来なくなり世話が必要でしたが、余裕がありませんでしたので施設への入所を決めました。

母にはゆったりとした余生を送って欲しいと思っています。気難しいところもある人ですが宜しくお願ひします。

古本寄贈

職員で持ち寄った古本を
NPO法人はあとスペースさんが
運営するまちかど図書館へ寄贈しました。

 **NPO法人はあとスペース**
あなたのモラルで、社会を変える

NPO法人はあとスペースさんは
飲酒運転撲滅運動をはじめ様々な活動をされています。



渡部施設長（右端）が訪問しました